

## ガーナでそろばんプロジェクト73号(2018年 4月 5 日)

★★ 芽生えた学びの気持ちをたいせつに育みたい ★★

今年の関東地方の桜満開の時期は去年よりも少しだけ早かったようで三月二十四日あたりがピークだったようです。SNSのおかげでガーナにいても日本の桜を存分に楽しめました。ガーナは一年を通してブーゲンビリアやプルメリアが咲き、目を十分に楽しませてくれます。アフィフェの校庭には残念ながらブーゲンビリアやプルメリアはありませんがアカシアの木があり、葉で覆われた枝は木陰を作り、その枝が風に揺れる音は好きな音の一つでもあります。そろばん教室で子どもが来るのを待つ間、アカシアの木を眺めながら、子どもたちが来るかなと不安になりながら待ち、教室が無事に始まると、トタン屋根に落ちるアカシアの葉の音で先ほどまでの不安な気持ちは払しょくされ、葉と葉が重なり出し合う音に加えてトタン屋根を軽く跳びはねるような葉の音、そして子どもたちのそろばんを弾く音が調和され大好きな時間へと変わっていくのです。ここ最近、ダバスのそろばん教室への足が遠のいてしまったように感じています。足が遠のいてしまっている子どもが来るのを心待ちにするのは、この大好きな時間ずっと続きます。“ダバス、あともう少しで練習プリント十回のご褒美なのに…” “あと数回頑張ればマラソンTシャツのご褒美の皆勤賞なのに…” その思いがずっとずっと続くのです。足が遠のいてしまったダバスを想っていると、3月のそろばん教室の日、約一年ぶりにエトナムが来ました。去年の3月から4月のスクールホリデー中のそろばん教室はなぜか新しい顔ぶれの子どもたちが多くいました。多い日では教室に来た子どもは十人。そんな新しい顔ぶれが多い中にエトナムはいました。現在四年生のエトナムは去年三年生。この新しい顔ぶれは3年生が大半でした。自分の名前を書くのもやっとという子どももいて、一時に新しい子どもが入ってきたということもあり、じっくり丁寧に教えることが出来ないイライラで指導が雑になっていました。

スクールバケーションが終わる頃にはまたいつものメンバーになっていたのですが、最初は新しい子どもたちが来なくなってしまうのは、丁寧に教えることをしないで苛々とのある態度を取ってしまったのが原因だったのかなと悩んでいましたが、スクールホリデーも終わったということもあり、来なくなってしまう理由を追究しませんでした。これが何年も通り頑張っていたことが十分にわかる子どもなら、何が原因なのだろうと深く考え、学校で会った時はまた教室に来るように声掛けするの、この時の子どもたちにはその声掛けさえしませんでした。その子どもうちの一人のエトナムが3月のそろばん教室の日は通ってきたのです。エトナムはムスリムの男の子が日曜日のお祈りに行く時の正装姿でやってきました。平日の授業の日は男の子の制服を着ています。エトナムにムスリムなのかと確認はしませんでした。そろばん教室に通うのはデバインアカデミースクールの子どもであれば誰でも通えるし、クリスチヤンであってもムスリムであってもそろばん教室には宗教観は関係ありません。学校の制服は何か理由があつてのことでしょう。エトナムが今後も通い続けてくれると嬉しいです。学びたい気持ちが芽生えた子どもへの想いは大切に育みたいと素直に思えた3月でした。

報告 TOSHKO



上段今年3月 下段去年4月

協賛

トモエそろばん様